

水俣市教育委員会点検・評価報告書

(平成26年度実績)

平成27年11月

水俣市教育委員会

目次

教育委員会の点検・評価について	1
教育委員の活動状況	3
点検・評価の結果について	
小中学校施設耐震化推進事業（非構造部材）	4
学力向上対策事業	6
いじめ・虐待・不登校児童生徒対策事業	8
環境教育（学校版環境 I S O）の推進事業	10
小中学校における I C T 化の推進事業	12
給食センターにおける食育・地産地消推進事業	14
人権教育推進事業	16
文化会館自主文化事業	18
日本一の読書のまちづくり事業	20
公民館自主事業	22
市民スポーツの推進事業	24

教育委員会の点検・評価について

1 経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行い、その結果の報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされました。

この報告書は、これに基づいて点検・評価を行ったものです。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、水俣市教育委員会に権限に属する事務のうち、重要な政策・事業とされるものを対象としています。

3 点検・評価の方法

点検・評価の方法は、市が実施する政策事業評価に準じて実施しています。

4 学識経験者の知見の活用

地教行法第27条第2項の規定による有識者の知見の活用については、教育委員会事務局が行った点検・評価（自己評価）の結果について、市民監査委員2名から意見を伺いました。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

教育委員の活動状況について

1 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回の定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催しています。平成26年度の開催状況は次のとおりです。

- (1) 教育委員会定例会 12回
- (2) 教育委員会臨時会 6回

2 審議等の件数

(1) 審議事項 73件

審議内容	件数
規則、訓令等の制定又は改廃に関する事	11
職員及び付属機関の委員の任免、その他の人事に関する事	11
議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する事	9
その他	42

※その他…教科書採択、奨学生の決定、後援の承認など

(2) 協議事項 15件

学校教育努力目標、次回の会議の開催日時など

(3) 報告事項 68件

市議会報告、学校教育活動に関する月例報告、催し物の結果報告など

3 水俣市教育委員名簿

平成27年3月31日現在

職名	氏名
委員長	荒木 由紀子
委員(委員長職務代理者)	河田 奈保子
委員	山田 誠次
委員	堀 浄信
委員(教育長)	吉本 哲裕

政策事業名	01	小中学校施設耐震化推進事業（非構造部材）	
事業期間	平成26年度から平成34年度	担当部署	教育総務課

1. 政策の目的・目標

学校施設は、多くの児童生徒等が一日の大半を過ごす学習、生活等の場であることから、地震発生時には、児童生徒等の人命を守るとともに、被災後の教育活動等の早期再開を可能とするため、施設や設備の損傷を最小限にとどめることなど、十分な耐震性能を持たせて学校施設を整備することが重要である。
 そのため、本市では平成21年度より小中学校施設の耐震化を進めており、平成24年度までに構造体の耐震化は全ての学校で完了した。しかしながら、体育館の天井材や照明器具、校舎の内外壁といった非構造部材については、耐震対策が万全ではなく、今後も平成25年度に策定した「非構造部材耐震化計画」に基づき、学校施設の安全対策を進めている。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

	前年度	本年度（H26年度）	増減
事業費 (A)	0	32,612	32,612
換算人件費 (B)	0	1,280	1,280
投入経費 (A+B)	0	33,892	33,892
(参考) 間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	前年度	本年度（H 26 年度）	次年度
目 標		・久木野小学校校舎外壁補修工事	・体育館天井材撤去工事 (水東小・久木野小) ・袋中学校外壁調査委託

■本年度活動目標の説明（事業として何をするか）

- ・久木野小学校校舎外壁補修工事の完了

(3) 【実績】

	前年度	本年度（H26年度）
実 績		・久木野小学校校舎外壁補修工事の完了

■本年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

- ・久木野小学校校舎外壁補修工事の完了

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由				
○	想定以上に成果があがった	4	久木野小学校校舎外壁補修工事を無事完了することができた。				
	想定どおりの成果であった	2					
	想定を下回った	0					
	想定を大きく下回った	-1					
(2) 効率性		点数	理由				
○	大変効率よくできた	3	天候等により想定した工期で完了することができなかったが、効率的に施工することはできた。				
	概ね効率よくできた	2					
	効率がよくなかった	1					
	全く効率が悪かった	0					
【総合評価】							
A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点) B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点) C 早急の見直しが必要なもの (3~2点) D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)			<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>点数</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>4 点</td> </tr> </table>	評価	点数	B	4 点
評価	点数						
B	4 点						

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
「非構造部材耐震化計画」に基づき、今後も非構造部材の耐震性の確保に努めていく。					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
平成34年までの長期計画をもとに実施しているが、学校施設の特異性（地域住民の応急避難場所としての機能等）を念頭に、常に財政課と協議しながら、事業の前倒しを提案していく。					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員	維持	改善	見直し	休止	終了
学校施設は児童生徒の学習の場であり、安全性が求められている。スピード感を持って、各学校の非構造部材について耐震化を推進してほしい。					
(2) 教育委員					
耐震化に向けた補修工事等が済んだ際は、業者・教育委員担当者・校長等の立会いのもと、竣工検査を徹底して、後に不満がでないよう努めてほしい。学校施設は避難所や地域の行事等に利用されることも多いので、トイレや照明等、誰でも使い易い設備整備が望ましい。また可能な限り計画の前倒しを進め、安全に備えたい。					

政策事業名	02	学力向上対策事業	
事業期間	平成25年度から平成27年度		担当部署 教育総務課

1. 政策の目的・目標

水俣市の児童生徒の学力向上は、保護者も市民も指導する教師も願うところである。水俣市学校教育3つの努力目標を「学びの心をもつ子ども、育ての心をもつ教師、はずむ心のある学校」と設定し、その実現に向けて、各学校では、学校や地域の実態に即して教育目標を定め、適切な教育計画のもと、具体的な実践をとおして、教育目標達成の実現に努めるものである。児童生徒の学力向上に向けて、教師の資質向上や授業力向上、地域に開かれた学校運営を目指し、様々な角度から目的・目標に迫れるよう事業を推進する。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

	前年度	本年度 (H26年度)	増減
事業費 (A)	2,957	2,780	△177
換算人件費 (B)			
投入経費 (A+B)	2,957	2,780	△177
(参考) 間接事業費			

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考) 間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	前年度	本年度 (H26年度)	次年度
目 標	学力向上宣言に基づき、具体的実践とその評価を実施し、児童生徒の学力向上を図る。 算数・数学の教科書基礎問題集を作成し、活用を図る。	学力向上宣言を見直し、児童生徒の実態に即した内容に改めるとともに、活用方法を検討する。 学力向上委員会の構成員について、小学校教諭の割合を増やす。	学力向上宣言を見直し、児童生徒の実態に即した内容に改めるとともに、活用方法を検討する。 学力向上委員会の構成員について、次年度も現在の小学校教諭の割合を維持する。

■本年度活動目標の説明(事業として何をするか)

- ・学力向上宣言に基づく各学校の具体的取り組みの状況を調査し、実効性を検証するとともに、改善策を提言する。
- ・学力向上研究推進指定校(水俣第一小学校)として児童の確かな学力を育成する実践的な研究に取り組む。
- ・学校図書館活用研究推進校(葛渡小学校、水俣第二中学校)において図書館の活用、児童生徒の読書習慣の形成等について取り組む。
- ・第10回みなまた教育フォーラムを開催し、本市が目指す教育実践、先行事例等について研修を行う。
- ・年3回の教育セミナーを開催し、本市の教育課題、学校・教職員のニーズに応じた内容の研修を行う。

(3) 【実績】

	前年度	本年度 (H26年度)
実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プロジェクト会議、資質指導力向上対策委員会を再編し、学校教育改革プロジェクトを組織し、学力向上委員会、水俣科推進委員会、学校開放推進委員会の3つの委員会を構成し、事業の見直しを図った。 ・市指定学力向上研究成果発表会(葛渡小学校)開催 ・第9回みなまた教育フォーラムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育改革プロジェクトの学力向上委員会、水俣科推進委員会、学校開放推進委員会の3つの委員会で、事業推進を行った。 ・学校図書館活用研究推進校(葛渡小学校、水俣第二中学校)の中間報告会を教育委員会にて行った。 ・第10回みなまた教育フォーラムの実施 ・年3回の教育セミナーの実施

■本年度実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

- ・学力向上宣言に基づく各学校の具体的取り組みの状況を調査し、過去5年間の県学力調査の問題を単元別に並べ直した問題集を作成・配付した。
- ・みなまた教育フォーラムでは、道徳の授業実践、いじめ未然防止の取り組み、土曜授業の実践の発表と、学校教育改革プロジェクト3つ委員会の活動報告を行った。
- ・年3回の教育セミナーでは、秋田県の授業実践及び水俣の授業実践に学ぶ会、県義務教育課指導主事による学力向上に向けた熊本県の取り組み、元校長による教師としてのあり方・姿勢などについて講演会を開催した。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度から始まった土曜授業は、各学校の創意工夫で計画的に年10回実施できた。 いじめの未然防止の研究発表会を、11月に開催できた。 県学力検査は学年間差が大きく、小中学校とも課題が見られた。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育改革プロジェクト会議、いじめの未然防止の連絡協議会ともに、計画通りに進められた。 みなまた教育フォーラム、教育セミナーともに、教職員の満足感が高かった。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)

評価	点数
B	5 点

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> 県学力調査結果における学年差を解消するための方策を検討する。 年10回の土曜授業を実施するとともに、計画的、組織的に取り組む。 					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<ul style="list-style-type: none"> 学力向上宣言の必要性、内容の見直しを行い、児童生徒の実態に即した授業づくりを検討する。 学力向上委員会について、次年度も今年度の小学校教諭の割合を維持する。 					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>児童生徒の学力の向上については、保護者・地域社会の関心が高く着実に推進してほしい。学校図書館の活用や、地元の高校生に夏休み期間中に小中学生に勉強を教えてもらうなど、地域の力を利用して、学力向上のための取組みを工夫してレベルアップにつなげられないか検討してほしい。</p>					
(2) 教育委員					
<p>学校・教育委員会ともに努力しているが、未だに児童生徒の学力の定着が不十分なことが現在の課題である。長期的な視野・展望をもちながら、現状を正確に分析する必要がある。家庭教育や自立支援事業（特に不登校児童生徒）等と関連した対策を行う必要もある。</p>					

政策事業名	03	いじめ、虐待、不登校児童対策事業		
事業期間	平成25年度から平成27年度		担当部署	教育総務課

1. 政策の目的・目標

いじめ、虐待、不登校の問題を抱える本市の児童生徒の自立を支援するため、関係機関との連携を強化しながら課題解決に努める。そのために、子ども自立支援室を中心とした取組を段階的に発展させ、関係機関のネットワークの構築を図りながら取組を進める。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

	前年度	本年度 (H 26 年度)	増減
事業費 (A)	3,447	2,879	△569
換算人件費 (B)			
投入経費 (A+B)	3,447	2,879	△569
(参考) 間接事業費			

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	前年度	本年度 (H26年度)	次年度
目 標	関係機関とのネットワークを深め、不登校児童生徒への効果的な取組を行う。 いじめ未然防止を中心とする県の委託事業自立支援事業の推進を図る。	子ども自立支援室の事業構想を見直し、不登校解消に向けた積極的な取組を行う。 いじめ未然防止を中心とする県の委託事業自立支援事業の推進を図る。	子ども自立支援室の指導員を充実し、不登校解消に向けた積極的な取組を行う。 自立支援事業連絡協議会において、いじめ、虐待、不登校の3つの部会で推進を図る。

■本年度活動目標の説明(事業として何をするか)

- ・子ども自立支援室において、各学校に在籍する不登校・不登校傾向の児童生徒を支援する。
- ・自立支援事業連絡協議会において、各学校におけるいじめ調査の結果報告、いじめ未然防止及び早期発見・早期解決の取組を紹介するとともに、積極的な具体策を検討する。
- ・中学校ブロックで地域にいじめの情報を提供し、学校と地域が連携して取組を行うために「ブロックいじめ対策委員会」を充実する。

(3) 【実績】

	前年度	本年度 (H26年度)
実 績	・適応指導水俣教室指導員による児童生徒の支援ができた。 ・いじめ未然防止を中心とする県の委託事業自立支援事業の推進を図ることができた。	・子ども自立支援室指導員による児童生徒の支援体制が充実した。 ・いじめ未然防止を中心とする県のいじめの防止等対策モデル事業の推進を図ることができた。

■本年度実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

- ・子ども自立支援室において、不登校・不登校傾向の児童生徒を支援した。
- ・自立支援事業連絡協議会において、各学校のいじめ調査結果の報告を行い、いじめ未然防止、早期発見・早期解決の取組をすべての小中学校で行った。
- ・8月に市内すべての小中学校の児童会生徒会が参加し、合同リーダー研修会を実施し、児童生徒が中心となっていじめの起きにくい学校づくりの取組を行った。
- ・「中学校ブロックいじめ対策委員会」を中心に、学校と地域が連携し、登校時間のあいさつ運動や夜間パトロール、「のぼり旗」の作成などを行うことができた。
- ・11月にいじめの未然防止の研究発表会を開催した。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の児童生徒数は昨年度より僅かに増加した。 ・いじめ調査結果については、小中学校ともに昨年度の人数より減少した。学校の認知件数は増加した。 ・いじめの防止等対策モデル事業は研究発表会を開催し、取り組みを、保護者、地域等に発信することができた。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	<ul style="list-style-type: none"> ・県のいじめの防止等対策モデル事業の取り組みは、計画的に実施することができた。 ・児童会生徒会リーダー研修会は、全ての小中学校が参加し、児童生徒が中心となり、いじめの未然防止に取り組むことができた。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)

評価	点数
B	5 点

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援事業連絡協議会において、いじめ、虐待、不登校の3つの部会で推進を図る。 ・不登校児童生徒が増加したことから、子ども自立支援室の指導員を増員する必要がある。 					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止は、児童会生徒会がリーダーシップを取るとともに、全校児童生徒で取り組んでいけるようにする。 ・子ども自立支援室の体制を充実させ、指導員が不登校児童生徒にじっくりと対応し、指導助言を行えるようにする。 					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>子ども自立支援室が設置され、不登校の児童生徒の支援がなされている。また、市内小中学校の児童会・生徒会役員の合同リーダー研修会が実施され、いじめの起こりにくい学校づくりに取り組んでいることが評価できる。「病気」を理由にした不登校は、他の理由が隠れていないか気を付けてもらいたい。不登校の生徒に、きめ細やかな支援をしていくためにも現在の体制で充分なのか検討してもらいたい。</p>					
(2) 教育委員					
<p>児童会・生徒会による合同リーダー研修会は多くの視点からの成果が期待される。不登校対策は現在最も重要な課題であり、それに対応する子ども自立支援室の機能の充実のため、室長やSSW等の配置を検討してほしい。 ※SSW = School Social Worker</p>					

政策事業名	04	環境教育（学校版環境ISO等）の推進事業	
事業期間	平成25年度から平成27年度	担当部署	教育総務課

1. 政策の目的・目標

本市は環境モデル都市に指定され、各学校における環境教育の推進にもさらに取り組んでいく必要がある。これまでも水俣市学校版環境ISOの取組を継続しており、今後はCO2削減も視野に入れた環境教育の充実を図っていく。

2・投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

	前年度	本年度（H26年度）	増減
事業費 (A)	0	0	0
換算人件費 (B)	0	0	0
投入経費 (A+B)	0	0	0
(参考) 間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	前年度	本年度（H26年度）	次年度
目 標	各学校における学校版環境ISOの取組（水俣市版・熊本県版）の充実及び環境教育の充実を図る。	各学校における学校版環境ISO（水俣市版・熊本県版）の取り組みの充実及び環境教育の充実を図る。	各学校における学校版環境ISO（水俣市版・熊本県版）の取り組みの充実及び環境教育の充実を図る。

■本年度活動目標の説明（事業として何をするか）

- ・水俣市学校版環境ISOの取り組みの継続。
- ・熊本県教育委員会主催「学校版環境ISOコンクール」への市内全小中学校の参加。
- ・県事業「水俣に学ぶ肥後っ子教室」での水俣病資料館、県環境センター等での校外学習。

(3) 【実績】

	前年度	本年度（H26年度）
実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣市版学校版環境ISOの取り組みを継続した。 ・市小中学校環境教育担当者会を実施した。 ・全小中学校が熊本県環境ISOコンクールへ参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣市学校版環境ISOの取り組みを継続した。 ・市小中学校環境教育担当者会を実施した。 ・全小中学校が熊本県環境ISOコンクールへ参加した。

■本年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

- ・学校版環境ISOの取り組みの継続。
- ・小中学校環境担当者研修会（5月26日）を実施し、市環境モデル都市推進課による講話、水俣第一中学校による実践報告を行った。
- ・熊本県環境ISOコンクールへ市内全小中学校が参加し、水俣第二中学校が最優秀賞を獲得した。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	・ I S Oの取り組みは、日常的な活動として、児童・生徒に定着している。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	・ 小学校低学年から中学校まで、成長段階に合わせて無理なく取り組みがなされている。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)

評価	点数
B	4 点

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>・平成12年度から続いている学校版環境 I S Oの取り組みを、今後も市内全校で継続していく。</p>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<p>・学校版 I S Oの取り組みも15年目を迎え、多少のマンネリ化も見られるが、市の環境主幹課との連携を進め、環境教育の更なる充実を図るとともに、学校間の交流等により、相互に切磋琢磨していく。</p>					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>学校版環境 I S Oは、すばらしい取り組みであるが、ここ数年目標が同じであることが気になる。また I S O以外にも環境教育はあるので、もっと広い視野で環境について学んでほしい。例えば「水俣条約」について、その経緯・歴史を含め学習してもらいたい。また前年度に引き続き投入経費が0であるが、更に内容を充実させるためには、予算が必要となるのではないかな。</p>					
(2) 教育委員					
<p>学校版 I S Oは水俣の児童生徒が当たり前のように取り組んでいることが素晴らしい。今後もコツコツと取り組みを継続してほしい。その反面、マンネリ化しないように創造的な企画を考えることにも取り組んでほしい。</p>					

政策事業名	05	小中学校におけるICT化の推進事業		
事業期間	平成26年度から平成27年度		担当部署	教育総務課

1. 政策の目的・目標

電子黒板やタブレット型パソコンなどの情報機器を用いた「教育の情報化」が全国的に進んでいるが、本市でも情報機器の導入を行い、児童・生徒により分かりやすい授業を提供し、学力の向上を図る。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

	前年度	本年度 (H26年度)	増減
事業費 (A)	0	5,322	5,322
換算人件費 (B)	0	0	0
投入経費 (A+B)	0	5,322	5,322
(参考) 間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	前年度	本年度 (H26年度)	次年度
目 標		電子黒板を市内の全小中学校(11校)へ各1台ずつ設置する。	情報機器の有効活用について検討し、平成28年度以降の機器の導入について計画書を作成する。

■本年度活動目標の説明(事業として何をするか)

電子黒板を市内の小中学校11校へ各1台ずつ設置する。

(3) 【実績】

	前年度	本年度 (H26年度)
実 績		電子黒板11台を導入した。

■本年度実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

市内の小中学校11校に電子黒板を各1台ずつ設置した。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由				
○	想定以上に成果があがった	4	各小中学校に電子黒板が設置された。				
	想定どおりの成果であった	2					
	想定を下回った	0					
	想定を大きく下回った	-1					
(2) 効率性		点数	理由				
○	大変効率よくできた	3					
	概ね効率よくできた	2					
	効率がよくなかった	1					
	全く効率が悪かった	0					
【総合評価】							
A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)			<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>点数</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>4 点</td> </tr> </table>	評価	点数	B	4 点
評価	点数						
B	4 点						
B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)							
C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)							
D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)							

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
電子黒板を授業で活用するために、まずは教職員に使用してもらい操作に慣れることが一番だが、配置台数が少ないため、十分に使用することができない。					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
電子黒板をより有効的に授業で活用するために、教職員のスキルアップのための研修や研究を行う。					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員	維持	改善	見直し	休止	終了
教師には、まず子どもとの対話を一番に考えてほしい。それを踏まえた上でICT化を図り、児童生徒の学力向上と教育環境の充実につなげてもらいたい。また、既に導入した機器については、きちんと授業で活用ができるよう、職員のスキルアップに努めてほしい。					
(2) 教育委員					
ICT導入については、中央省庁や民間団体等の補助事業や委託事業等を利用し、児童生徒のICT能力が他の市町村に劣ることがないように環境整備に努めてもらいたい。しかし本来は、「教師の授業力」で学力向上を目指すべきであり、情報端末は便利な道具に過ぎないので、「情報端末が先生」とならないよう注意してほしい。					

政策事業名	06	給食センターにおける食育・地産地消推進事業		
事業期間	平成25年度から平成27年度		担当部署	学校給食センター

1. 政策の目的・目標

学校・地域・家庭と連携して、学校給食を生きた教材として活用した食育を推進する。また、生産者の顔が見える地場産食材を給食に使用し、旬の食材を使った水俣・芦北メニューなどの献立を実施して、地産地消を推進する。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

	前年度	本年度 (H26年度)	増減
事業費 (A)	109,998	91,964	-18,034
換算人件費 (B)			
投入経費 (A+B)	109,998	91,964	-18,034
(参考) 間接事業費			

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	前年度	本年度 (H26年度)	次年度
目 標	1. 食育の推進 食に関する指導、アレルギー対応食の実施、見学、視察、試食会、研修会の実施 2. 地産地消の推進 地場産食材の増加、献立充実	1. 食育の推進 食に関する指導、アレルギー対応食の実施、見学、視察、試食会、研修会の実施 2. 地産地消の推進 地場産食材の増加、献立充実	1. 食育の推進 食に関する指導、アレルギー対応食の実施、見学、視察、試食会、研修会の実施 2. 地産地消の推進 地場産食材の増加、献立充実

■本年度活動目標の説明(事業として何をするか)

食育の推進として、食に関する指導、ふれあい給食懇話会(試食会)やアレルギー対応食を実施し、また、見学、視察、試食会、センター見学会を実施し、給食センターを食育の拠点として活用した事業を推進する。
 また、地場産食材を使用した給食「水俣・芦北メニュー」、郷土料理を取り入れた「ふるさとくまさんデー」を実施し、菜種・菜の花新芽の収穫体験学習を行い、生産者と連携した地産地消を推進する。

(3) 【実績】

	前年度	本年度 (H26年度)
実 績	1. 食に関する指導 43回、見学 11回、視察 5回、試食会 20回、親子料理教室 3回 2. 地場産食材納入品目 42品・収穫体験学習 2校実施	1. 食に関する指導 60回、見学 13回、視察 7回、試食会 24回、親子料理教室 7回 2. 地場産食材納入品目 44品・収穫体験学習 2校実施

■本年度実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

食育の推進としては、食に関する指導、給食試食会を各学校で実施した。給食センターの見学、視察、試食会、夏休みの見学会を実施して、充実した活用ができた。アレルギー対応食を36名に実施し、個々に応じた食育を推進した。また、熊本県学校給食研究協議大会で当センターの取組を発表した。地場産食材納入品目は、あおさ・アカモク・ゆず・にんにく・ゆかりの納入で44品目となり、菜種・菜の花の新芽の収穫体験学習を2校で実施した。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	目標とする取組は、昨年より回数多く実施できた。特に親子料理教室は、調理職員も参加して7回実施し、充実した活動となった。 地元産の海産物（あおさ・アカモク）や食材（ゆず・にんにく・ゆかり）を使った給食を実施した。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	学校、関係各課、保護者、生産者と連携して効率よく活動ができた。地場産の人参については、生産者が増えて、使用量・回数を増やすことができた。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6点）
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4点）
- C 早急の見直しが必要なもの（3～2点）
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～1点）

評価	点数
A	6 点

4. 今後の方向性（課題と見直し）

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
アレルギー対応食については、学校生活管理指導表の運用が必須となり、要綱を改定し内容の充実を図った。今後も、学校、家庭、医療機関と連携して確実に取り組んでいくことが課題である。					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
アレルギー対応食については、年度ごとに学校生活指導表を提出してもらい、内容の見直しを図り、より適切な対応となるように充実させていく。 地産地消について、生産者と交流し、情報を発信して内容を充実し、地元の旬の食材を使った安全で安心な魅力ある給食を目指していく。					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員	維持	改善	見直し	休止	終了
給食を「生きた教材」ととらえ食育の拠点として積極的に食に関する事業を実施している。また地場産食材を使用した郷土料理の提供や、地産地消による生産者との連携がよくできている。地元の食材を入手する方法として、一般公募してはどうか。					
(2) 教育委員					
多様なアレルギー対応食の実施、地場産食材の積極的活用、開かれた給食センターづくりなど、よく努力している。より一層のチームワークで水俣市の給食のカラーを確かなものにし、他市町村の目標となる給食センターとなることを期待したい。					

政策事業名	07	人権教育推進事業		
事業期間	平成25年度から平成27年度		担当部署	生涯学習課

1. 政策の目的・目標

地域住民が人権問題をより身近なものとして捉え、気軽に学習できる機会を増やすための講座等を実施し、本市の抱える水俣病問題をはじめ様々な人権問題に対する理解と認識を深め、あらゆる差別の解消を目指すための事業を展開する。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

	前年度	本年度 (H26年度)	増減
事業費 (A)	1,951	2,400	449
換算人件費 (B)	5,076	5,778	702
投入経費 (A+B)	7,027	8,178	1151
(参考) 間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考) 間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	前年度	本年度 (H26年度)	次年度
目 標	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 2) 出前講座の実施 3) 教職員等を対象とした水俣病啓発事業の実施	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 2) 水俣・芦北地区人権教育研究大会の実施	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 2) 水俣・芦北地区人権教育研究大会の実施 3) 水俣市内を中心とした出前講座の実施

■本年度活動目標の説明(事業として何をするか)

人権教育に関する基本的な内容の参加体験型学習を中心に、分かりやすい講座、住民が参加しやすい講座を展開していく。また平成26年度、27年度は水俣・芦北地区人権教育研究大会の事務局が水俣市となるので、内容を充実させ、広く市民へ人権啓発を行う場とする。

(3) 【実績】

	前年度	本年度 (H26年度)
実 績	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 2) 出前講座の実施 3) 教職員、高校生等を対象とした水俣病啓発事業の実施	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 2) 水俣・芦北地区人権教育研究大会の実施

■本年度実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

1) ヒューマンライツ・セミナー

・・・昨年度よりも参加者が減少し、市内3つの中学校から5名の参加だったが、その分内容を深めることができ、講座の最後には、学校の先生や保護者を招いた報告会が開催できた。参加された先生や保護者から「よかった」等の感想があった。

2) 水俣・芦北地区人権教育研究大会の実施

・・・8月22日(金)水俣市で開催した。5回の実行委員会を経て、充実した内容の研究大会となり、昨年を上回る400人が参加した。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	・ヒューマンライツ・セミナーでは参加者の減少がみられたものの、自分たちの想いを形にすることができ、セミナー最後の報告会にて受講者の学習成果を発表した。 ・水俣・芦北地区人権教育研究大会では、参加者が昨年を上回り、結果を出すことができた。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	・ヒューマンライツ・セミナーでは受講者の募集方法を改善し、次年度は参加者を増やせるようにしたい。 ・水俣・芦北地区人権教育研究大会では、当日の段取り等に反省点があるので、次年度は改善していきたい。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)

評価	点数
B	4 点

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
課題：①市内企業、各種団体への出前講座の周知 ②ヒューマンライツ・セミナー受講者の確保、セミナーの内容の改善 ③今年度開催した人権教育研究大会での反省点の改善、更なる内容の充実化 方向性：昨年度までの事業内容を大幅に見直し、水俣市内を中心に啓発活動を行う。地域住民が参加しやすく、かつ基本的で分かりやすい内容の講座を企画する。					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
これまでの人権教育は、専門的になりすぎて、分野に偏り等が出てきたため、事業内容を大きく見直し、参加体験型学習を中心に、基本的な人権問題に関するものとし、住民が敬遠しがちなイメージを払拭していく。また、ヒューマンライツ・セミナーにおいては、受講者の対象年齢を広げ、中学生だけではなく、親子、一般からも参加者を募り、世代間での人権問題への啓発を行う。水俣・芦北人権教育研究大会については、前回の参加者アンケートを踏まえ、様々な人権問題を取りあげ、人権知識の充実及び啓発を行う。					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員	維持	改善	見直し	休止	終了
人権意識を高める取り組み自体は、非常に重要なことである。政策の目的に水俣病問題に対する理解と認識を深めることが入っているが、実績では記載がほとんどないことが気になる。またヒューマンライツセミナーの内容を見直し、対象を広げて多くの人が参加する事業としての工夫がほしい。					
(2) 教育委員					
人権意識の高揚や実践力は心豊かな人づくりの基礎となるものであり、年齢や職種等に関らず啓発していく必要がある。今後は新しい視点で取り組み、分かりやすく、誰でも参加しやすい人権教育講座の取り組みを期待したい。ヒューマンライツセミナーについては、政策の目的・目標に照らしてその在り方を明確にする必要がある。					

政策事業名	08	文化会館自主文化事業	
事業期間	平成25年度から平成27年度		担当部署 生涯学習課

1. 政策の目的・目標

目的：生の優れた舞台芸術等を鑑賞する機会を低料金で提供し、市民の教養を高め、文化向上を図る。
 また、単なる一方的な鑑賞にとどまらず、プロに学んだりジョイントコンサートを行ったりするなど、住民参加型の催しも積極的に取り入れていく。

内容：文化会館における公演の実施
 芸術劇場…児童・生徒対象。小学生向けと中学生向けを隔年で開催する。
 一般公演…音楽、演劇、落語、伝統芸能、舞踊その他様々な舞台芸術の中から、ジャンルに偏りが無いように選定、1～2本の上演を行う。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

	前年度	本年度 (H26年度)	増減
事業費 (A)	2,072	2,226	154
換算人件費 (B)	2,970	3,105	135
投入経費 (A+B)	5,042	5,196	154
(参考) 間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考) 間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	前年度	本年度 (H26年度)	次年度
目 標	中学校芸術劇場 (演劇) の実施 伝統芸能 (講談) 公演の実施	小学校芸術劇場 (演劇) 宝くじ文化公演の実施	中学校芸術劇場 (演劇) の実施 ファミリー向け公演の実施

■本年度活動目標の説明 (事業として何をするか)

- 宝くじ文化公演「三遊亭歌之介独演会」
 開催日:平成27年2月21日(土) 目標値:入場率80%確保(入場者数/有効発席数932)
 内容:三遊亭歌之介氏による落語。宝くじ助成事業として実施。
- 小学校芸術劇場「どんぐりと山猫」(劇団わらび座)
 開催日:平成26年11月25日(火) 対象者:市内小学校全児童
 内容:宮沢賢治の作品の中でも心温まる童話として知られている作品をミュージカル化したもの。

(3) 【実績】

	前年度	本年度 (H26年度)
実 績	・徳富蘇峰物語 ～一龍斎貞花 講談の世界～ (一龍斎貞花) ・中学校芸術劇場「ノートルダム物語」(劇団ショーマンシップ)	・宝くじ文化公演「三遊亭歌之介独演会」(自治総合センター) ・小学校芸術劇場「どんぐりと山猫」(劇団わらび座)

■本年度実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

- 宝くじ文化公演「三遊亭歌之介独演会」(2月21日) 入場者数708名(招待者あり) 入場率75.9%。広報には力を入れたが、僅かに目標値を下回った。しかし、多くの来場者に楽しんでもらうことができ、笑いの提供により、健康的で明るいまちづくりに文化面から寄与する事業となった。
- 小学校芸術劇場「どんぐりと山猫」(11月25日) 市内小学校児童・引率者合計1,117人が鑑賞。宮沢賢治の原作で「自分は自分でいいんだ」という思いを伝える作品の観劇を通して、互いのよさ、ちがいに気づき、互いを尊重しあうことを考えてもらう機会となった。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	宝くじ文化公演については、目標入場率80%を僅かに下回ったが、多くの来場者に楽しんでもらうことができたため、事業の目的は達成できたと判断した。 芸術劇場についても、概ね事業目的を達成できたと判断している。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	宝くじ文化公演は年度末の開催であったため、準備に十分な時間を確保することができた。小学校芸術劇場においても各学校との段取りをスムーズに行うことができた。 どちらの公演も当日は特段大きなトラブルもなく無事に終ることができた。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)

評価	点数
B	4 点

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>演目を集客率や知名度の高さだけで選定してしまうと、ジャンルに偏りが生じたり、公演委託料が高くなってしまふなどの弊害がある。</p> <p>限られた予算の中で事業効果を高めるためにも、幅広いジャンルから演目を選定し、助成や補助金を活用したり、効果的な広報活動を行うなどして、多くの市民へ質の高い文化芸術を提供していきたい。</p>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<p>市民の関心が高いジャンルや時流に応じた演目を選定することで市民の教養を高め、文化の向上を図っていく。また、効果的な広報活動を行うことで集客率を高め、多くの市民が気軽に文化芸術を鑑賞できるようにしていく。</p> <p>次世代を担う子どもたちに対しても、豊かな心や感性を刺激し育てていくような演目を増やして、鑑賞の機会を提供し続けていく。</p>					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>毎年集客で苦勞をしているようだが、26年度実施された小学校芸術劇場「どんぐりと山猫」、宝くじ文化公演「三遊亭歌之介独演会」は好評であり、市民の豊かな心の育成に寄与していると考えられる。</p>					
(2) 教育委員					
<p>予算面で厳しい面はあるが文化庁等による補助事業等を積極的に活用するとともに、市民が運営に加担できるような仕組みも必要のように考える。今後も流行だけに偏らない内容の質の高い公演を実施することで水俣市民の文化意識を高めてもらいたい。</p>					

政策事業名	09	日本一の読書のまちづくり事業		
事業期間	平成25年度から平成27年度		担当部署	生涯学習課市立図書館

1. 政策の目的・目標

「日本一の読書のまちづくり計画」に基づき、「すべての市民が読書に親しみ、人生をより深く生きる生命(いのち)安らぐまち」づくりを目的に、読書活動推進のための図書館を核とする様々な事業を展開していく。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

	前年度	本年度 (H26年度)	増減
事業費 (A)	4,637	11,984	7,347
換算人件費 (B)	6,588	6,561	-27
投入経費 (A+B)	11,225	18,545	7,320
(参考) 間接事業費			

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考) 間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	前年度	本年度 (H26年度)	次年度
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・みなまた環境絵本大賞作品募集 ・ぐるりんぱブックスタート ・動くえほん館みなよむ号 ・まちかど図書コーナーの増設 ・移動図書館「そほう号」利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・みなまた環境絵本大賞作品出版 ・ぐるりんぱブックスタート事業 ・移動図書館、動く絵本館活用推進 ・読書のまちづくり人材育成支援 ・「本読み場」設置推進 ・洪水文庫旧蔵書籍の保管、整理促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・みなまた環境絵本大賞作品募集 ・ぐるりんぱブックスタート事業 ・移動図書館、動く絵本館活用推進 ・読書のまちづくり人材育成支援事業 ・「本読み場」設置推進 ・洪水文庫旧蔵書籍の保管、整理促進

■本年度活動目標の説明(事業として何をやるか)

・上記目標に掲げた各項目を事業予算化し、計画的に事業を推進する。

(3) 【実績】

	前年度	本年度 (H26年度)
実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・みなまた環境絵本大賞作品募集事業 ・ぐるりんぱブックスタート事業 ・動くえほん館みなよむ号事業 ・まちかど図書コーナーの増設 ・移動図書館「そほう号」利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・みなまた環境絵本第3回大賞作品出版 ・ぐるりんぱブックスタート事業で、4ヶ月健診児全員に絵本贈呈 ・移動図書館「そほう号」、動く絵本館「みなよむ号」活用推進 ・洪水文庫旧蔵書籍の整理保管 ・「本読み場」設置推進 ・読書のまちづくり人材育成支援事業

■本年度実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

- ・みなまた環境絵本大賞第3回受賞作品「すずこ」出版：西日本新聞社から3,000部出版。3月21日に出版発表会開催。
- ・ぐるりんぱブックスタート：子どもセンターと連携して月2回、市保健センターでの乳幼児健診時に本の贈呈及び読み聞かせを実施。(贈呈数167冊)
- ・移動図書館「そほう号」、動く絵本館「みなくる館」の活用推進：そほう号は地域、スクールライブラリーなど46箇所を巡回。
- ・洪水文庫旧蔵書籍である蘇峰寄贈本の整理保管に県立大学の地域貢献事業を活用し作業が進展した。(劣化防止の専用袋、箱などへ探しやすい整理をして保管)
- ・読書のまちづくり人材育成支援事業：図書館の指導のもと、読書のまちづくり事業に携わる中で地元での起業を行うような人材育成を目的とする業務を市内書店に委託し、3名の人材育成を図った。その中で「高校生ポップ絵選挙」などのイベントを手がけ、テレビ(NHK)取材で図書館の取組を紹介された。
- ・まちかど図書コーナーは、より利用推進が期待できる「本読み場」へと移行していくよう制度の整備を図った。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由				
○	想定以上に成果があがった	4	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館・公民館全体の空調設備工事による1ヶ月の長期休館があったが、貸出冊数は前年度を上回った。 ・図書館、民間団体、地元高校との連携によるイベント実施（高校生ポップ選手権開催、関連本の書店での販売促進）が成功し、テレビ報道（NHK）もなされた。 ・図書館まつりは過去最高の来場者となった。 ・淇水文庫旧蔵の膨大な蘇峰寄贈本の整理保管を県立大学の地域貢献事業を活用して整理・保管を進めることができた。 				
	想定どおりの成果であった	2					
	想定を下回った	0					
	想定を大きく下回った	-1					
(2) 効率性		点数	理由				
○	大変効率よくできた	3	職員の労力不足が懸念されたが、非常勤職員1名の予算が確保されたことや、国の緊急雇用対策事業を活用した人材育成支援事業ができたこと、県立大学の地域貢献事業による労力・経費の全面支援を得て、淇水文庫旧蔵の蘇峰寄贈本の整理・保管が進んだこと。				
	概ね効率よくできた	2					
	効率がよくなかった	1					
	全く効率が悪かった	0					
【総合評価】 A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6点） B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4点） C 早急の見直しが必要なもの（3～2点） D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～1点）							
		<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>点数</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">6 点</td> </tr> </table>		評価	点数	A	6 点
評価	点数						
A	6 点						

4. 今後の方向性（課題と見直し）

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> ・環境絵本大賞事業という他自治体には見られない出版事業に相当の労力を要している。そのため、他業務への労力が不足している。 ・図書館所蔵の各種郷土資料の劣化防止・活用に努めていく必要がある。本年度は、県立大学の地域貢献事業により、労力・経費など全面的支援を得ながら、本館の特色である徳富蘇峰の膨大な寄贈本の整理・保管について進展できた。次年度以降も専門家の支援が必要である。 ・ぐるりんばセカンドブック事業を新たに開始し、2冊目の贈本を行う。（H27年度から） 					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・環境絵本事業専属の非常勤職員1名を予算獲得し継続確保する。 ・県立大学の地域貢献事業への継続申請実施（申請中、担当教授とは協議済み） 					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員	維持	改善	見直し	休止	終了
図書館だけでなく、市民・店舗・地域まで巻き込んで、多彩な活動をしている。特にみなまた環境絵本大賞に関する取り組みは、環境モデル都市水俣にふさわしい事業である。現在の活動を維持していくためにも、十分な人員体制を整えることが望ましい。					
(2) 教育委員					
限られた予算や設備・施設の中で、民間団体や高校生を巻き込みながら、創意工夫して事業展開しており、特にみなまた環境絵本事業等の取り組みは、水俣市の特徴的な事業といえるまでになった。今後も積極的な事業展開を期待したい。					

政策事業名	10	公民館自主事業	
事業期間	平成25年度から平成27年度		担当部署 生涯学習課

1. 政策の目的・目標

市民の生涯学習活動の活性化を図り、多様な学習機会や集いの場を提供するために、公民館自主事業を実施する。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

	前年度	本年度 (H26年度)	増減
事業費 (A)	2,131	2,014	-117
換算人件費 (B)	864	864	0
投入経費 (A+B)	2,995	2,878	-117
(参考) 間接事業費	1,033	1,132	99

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	前年度	本年度 (H26年度)	次年度
目 標	市民教室 23教室 355人 いきいき教室 7回 195人 生涯学習フェスティバル 1,000人	市民教室 23教室 390人 いきいき教室 不定期200人 生涯学習フェスティバル 1,000人	市民教室 20教室 300人 いきいき教室 不定期200人 生涯学習フェスティバル 1,000人

■本年度活動目標の説明(事業として何をするか)

- ・市民教室受講生の増加を図る。
- ・1つのテーマを設定した連続物(シリーズもの)による「いきいき教室」の試行。

(3) 【実績】

	前年度	本年度 (H26年度)
実 績	市民教室 23教室 355人 いきいき教室 7回 195人 生涯学習フェスティバル 1,369人	市民教室 25教室 384人 いきいき教室 5回 170人 生涯学習フェスティバル 1,786人

■本年度実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

- ・市民教室受講生 目標⇒対前年比10%増 実績⇒8%増
- ・いきいき教室受講生 目標⇒200人 実績170人
- ・生涯学習フェスティバル参加人員 目標⇒1,000人 実績 1,786人

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	いきいき教室は、前年度比減となったが、市民教室及び生涯学習フェスティバルについては前年度を上回る参加者があり、概ね好評であった。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	市民教室では、講師への働きかけの結果、昨年に比べ2教室が新たに立ち上がり、受講生も29人増加した。今まで減少傾向にあった市民教室受講生の減少を食い止めることが出来た。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)

評価	点数
B	4 点

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> ・市民教室については、平成26年度まで3年連続して同一教室を受講した者は、受講できなくなることから、今後、受講生の減少が予想される。 ・いきいき教室については、受講生数だけを目指して、集客性のあるものを行う方が良いのか、集客性は無くても、生涯学習として求められるものを実施する方がよいのか、判断が難しい。 					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・市民教室については、連続受講が3年までとなっているため、27年度以降受講できない人たちを、自主教室へ導いていく必要がある。 ・いきいき教室では、シリーズものとして実施した「水俣の歴史」が好評であった。今後、1つのテーマにしぼったシリーズものも積極的に取り入れていきたい。 					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>市民教室の受講生は前年度より8%増、いきいき教室はシリーズものが好評であった。しかし一部マンネリ化している感もあるので、郊外での出前講座の実施等の工夫をするなど、今後も新人の受講者を更に発掘し、一層の充実を期待したい。</p>					
(2) 教育委員					
<p>「市民教室」の連続受講3年限定は自主的な運営、自発的な学びを誘引していくことにつながると考えられる。「生き生き教室」は、大学の出前講座の活用や県民カレッジとの連携を進めたり、講座で学んだことを伝えることができる指導者やボランティアの育成など工夫を凝らしてもらいたい。</p>					

政策事業名	11	生涯スポーツ活動及び競技スポーツの推進事業		
事業期間	平成25年度から平成27年度		担当部署	生涯学習課

1. 政策の目的・目標

生涯スポーツの推進により、市民が健康で生きがいのある生活をおくるため、それぞれのライフスタイルや目的に応じたスポーツ活動の振興に努める。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

	前年度	本年度 (H26年度)	増減
事業費 (A)	6,629	5,219	-1,410
換算人件費 (B)	22,680	22,680	0
投入経費 (A+B)	29,309	27,899	-1,410
(参考) 間接事業費			

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること

※(参考)間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

(2) 【活動目標】

	前年度	本年度 (H26年度)	次年度
目 標	市民スポーツの推進	生涯スポーツ活動及び 競技スポーツ活動の推進	スポーツ拠点の整備と充実 組織の充実と人材の育成

■本年度活動目標の説明(事業として何をするか)

誰もが気軽に楽しめるスポーツを通じた交流の場を提供し、ニュースポーツの普及、健康増進、スポーツ活動の拠点施設の利用促進を図りながら、スポーツを始める、続けるためのきっかけ作り地域交流の拠点づくりに寄与することを目的とし、エコパーク(屋外)と総合体育館(屋内)を会場とした「みなまたスポーツ祭り2014」を開催する。

(3) 【実績】

	前年度	本年度 (H26年度)
実 績	1、市民スポーツ大会の実施及び充実 2、スポーツ推進委員によるニュースポーツの普及及び各地域におけるスポーツ大会等の実施 3、市民体育祭のリニューアルのための市民体育祭検討委員会の開催実施	1 みなまたスポーツ祭り2014として、実行委員会の設置 2 第1回ニュースポーツ交流大会の実施 3 スポーツ推進委員によるニュースポーツの普及、地域の拠点づくりに寄与 4 各地域におけるスポーツ大会等の実施 5 市主催のスポーツ大会の実施及び充実

■本年度実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

本年度の目標である生涯スポーツの活動については、みなまたスポーツ祭り2014として、実行委員会を設置し、リニューアルした市民体育祭、ニュースポーツ交流大会を新たに開催することにした。残念ながら、市民体育祭は台風の影響のため中止となったが、ニュースポーツ交流大会は、300人余りの参加人数等で大盛況の中に終了することができた。

また、スポーツ推進委員協議会が開催する出前スポーツ教室については、年間700人強の参加人数で、ニュースポーツの普及振興に寄与している。

なお、競技スポーツ活動の推進については、スポーツに関する総合的な知識や技術をもつ、指導者等の育成・確保が今後の重要な課題である。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由				
○	想定以上に成果があがった	4	誰もが気軽に楽しめるスポーツを通じ、市民の親睦と融和を深めるとともに、地域におけるスポーツの振興と体力づくりの機運を盛り上げ、スポーツで明るい豊かなまちづくりを目指すなど、スポーツを始める契機となっている。				
	想定どおりの成果であった	2					
	想定を下回った	0					
	想定を大きく下回った	-1					
(2) 効率性		点数	理由				
○	大変効率よくできた	3	みなまたスポーツ祭り2014として、実行委員会を設置し、議論を重ねるなかで、様々な意見を取り入れながら、大会に向けた協議をおこなった。				
	概ね効率よくできた	2					
	効率がよくなかった	1					
	全く効率が悪かった	0					
【総合評価】 A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点) B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点) C 早急の見直しが必要なもの (3~2点) D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)			<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>点数</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>4 点</td> </tr> </table>	評価	点数	B	4 点
評価	点数						
B	4 点						

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
市民体育祭等については、みなまたスポーツ祭り2014として、実行委員会を設置し、リニューアルを図ってきた。 しかし、スポーツに対する市民の幅広いニーズに応じていくため、市が主催するスポーツイベント等のあり方について、検討する必要が生じてきている。					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
今後、ニュースポーツの促進等も図りながらスポーツに親しむ市民づくりや、遊びの中で自然と体力づくりができる環境づくりなど、誰もが生涯を通じて気軽に参加できる生涯スポーツの推進に取り組む。					

5. 政策に対する意見

(1) 市民監査委員	維持	改善	見直し	休止	終了
職員数が少ないにもかかわらず、競技スポーツはもとより、ニュースポーツの普及促進にも励んでいる。またスポーツ推進委員と連携して、出前スポーツ教室等を行い、市民のスポーツ普及や健康増進に寄与している。今後の普及活動については市がリードしながらも、徐々に民間に移行していく方法を検討してもらいたい。					
(2) 教育委員					
全般的にスポーツ事業の企画、運営は体育協会やスポーツ推進委員とうまく連携し、スムーズにしているように思う。ニュースポーツ交流会も幅広い年齢層がスポーツに親しむ機会となっているが、更に新たな種目の開発や山間部等での開催などに努めて、多くの市民が参加できるようにしたい。					